

(様式4)

## 学位論文の内容の要旨

氏名 長嶺めぐみ 印

(学位論文のタイトル)

### **Structuring Communication Difficulties of Foreign Residents When Visiting a Medical Institution in Japan**

(在留外国人患者の医療機関受診時のコミュニケーション上の困難さの構造化)

(学位論文の要旨)

**背景：**日本における在留外国人数は、出入国管理及び難民認定法が改正された1990年以降、年々増加してきた。日本語が十分に話せない在留外国人は医療機関を受診した場合、「言葉が通じないこと」を理由に、様々な困難な経験をしている。医療従事者にとっても業務を行う上で、患者とのコミュニケーションは、患者側の状況を的確に把握し、治療内容の理解を促すためにも重要である。しかし、先行調査では、約2割の医療従事者が専門の訓練を受けた医療通訳者を「必要ない」と回答するなど、コミュニケーションを重要と認識しながらも、医療通訳を利用しての確実なコミュニケーションをとる必要性や医療通訳利用の利点の理解が医療従事者側に進んでいない。一方、外国人患者側からのコミュニケーションに関する調査はほとんど行われていない為、外国人患者も医療従事者と同様に医療通訳制度について必要ないと考えているのか、両者の間に認識のずれが生じていないかについては明らかではない。

**目的：**本研究は以下の2つを目的に行った：①日本語が母国語でない在留外国人患者が日本の医療機関を受診した際の経験から、コミュニケーションに起因した困難さを明らかにして構造化する、②在留外国人患者への適切な医療提供のためのコミュニケーション上の方策を検討する。

**方法：**①在留資格を持ち、生活基盤を日本国内に持つ者、②日本語能力に不安を抱える者、③日本の医療機関を受診または入院の経験がある者の3つの条件をそなえる在留外国人に対し、半構造化面接調査を実施した。データの分析は、看護概念創出法を適用した。

**結果：**18人の面接内容を分析した結果、8コアカテゴリが形成され、形成された8コアカテゴリは、【患者主体のコミュニケーションの重要性を軽視した医療サービスの提供】【医療従事者間に存在する異文化適応能力の差】【医療従事者による機械翻訳の一時的な活用】【日本の病院や文化に関する情報不足】【日本の医療に対する過度な期待】【外国人コミュニティが抱える構造的課題】【適切な医療を受けるために医療専門の通訳が必要であることの認識不足】【患者の期待に応える医療専門の通訳能力の獲得と維持の必要性】である。また8つのコアカテゴリは、コミュニケーションに起因した困難さの発生要因と医療通訳の利用拡大をする上での問題の2つに大きく分けられた。

コミュニケーションに起因した困難さの発生要因では、社会的な環境因子として【外国人コミュニティが抱える構造的課題】が土台にあった。医療機関・医療従事者由来の発生要因には【患者主体のコミュニケーションの重要性を軽視した医療サービスの提供】【医療従事者間に存在する異文化適応能力の差】【医療従事者による機械翻訳の一時的な活用】が、在留外国人患者由来の発生要因には【日本の病院や文化に関する情報不足】【日本の医療に対する過度な期待】が含まれていた。

医療通訳の利用拡大をする上での問題には、【適切な医療を受けるために医療専門の通訳が必要であることの認識不足】【患者の期待に応える医療専門の通訳能力の獲得と維持の必要性】が含まれていた。

**結語：**コミュニケーションに起因した困難さの発生要因では、社会的な環境因子として【外国人コミュニティが抱える構造的問題】が土台にある。外国人コミュニティ内では、同国の母語で会話が成立するため、高い日本語能力が必要とならず、向上も見込めない。加えて、日本人との関わりが薄いことで、日本文化の理解や考え方の理解が進みにくい。このことは、医療機関で起こっている在留外国人患者-医療従事者間のコミュニケーション上の問題が、根幹にある外国人コミュニティの中に存在する構造的な問題を解決しなければ、いつまでも続くことを意味している。今後日本が外国人との共生社会の実現を目指すのであれば、外国人コミュニティへの日常的な支援を継続し、外国人コミュニティの孤立化を防ぐことが必要である。

コミュニケーションに起因した困難さの発生要因に該当したコアカテゴリと医療通訳の利用拡大をする上での問題に該当したコアカテゴリ間では、【日本の病院や文化に関する情報不足】と【適切な医療を受けるために医療専門の通訳が必要であることの認識不足】が関連している。これは、在留外国人患者は日本の医療制度や医療通訳に対する知識がないことを意味していた。医療通訳というものを在留外国人患者側は認識していない為、医療通訳利用によるコミュニケーション改善の効果を在留外国人患者が評価するまでに現状至っていない。

これらのことから、外国人コミュニティへの日常的な支援が、在留外国人への適切な医療提供のためにも必要である。また、医療コミュニケーション上の対策として医療通訳の積極的な導入が考えられるが、①在留外国人患者の医療通訳についての認知の向上、②医療従事者側からの積極的利用の提案、③医療通訳者の高い通訳能力の獲得と維持が課題である。